

再編整備計画は

手始めに2校

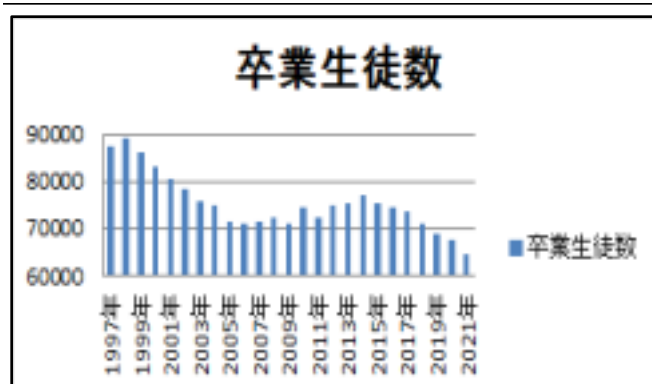
池田北高校
咲洲高校

弱者切捨ての高校つぶし 撤回を

中学校卒業生数	
年度	卒業生徒数
1997年	87283
1998年	88945
1999年	86181
2000年	83302
2001年	80318
2002年	78443
2003年	75697
2004年	75098
2005年	71654
2006年	71147
2007年	71570
2008年	72328
2009年	70819
2010年	74348
2011年	72298
2012年	74832
2013年	75207
2014年	77220
2015年	75400
2016年	74370
2017年	73410
2018年	71043
2019年	69060
2020年	67560
2021年	64400

府内の公立中学校卒業生数【左図参照】は、09年度と14年度の比較で6401増です。この間府教委は、高校新設することなくクラス増等これを取り切りました。

「生徒数減」を考える
時大切なのは、09年度と21年度の人数を比べることです。6419人減、40人学級換算なら160学級減です。大阪の全日



府教委の考え
生徒数減だから募集停止（廃校）は仕方ない
いいえ クラス数の増減で十分対応できます

府教育委員会は、昨年11月に「大阪府立高校・大阪府立高校再編整備計画」を策定しました。「計画」では、18年度までに「府立高校・市立高校あわせて7校程度の募集停止」としています。

9月3日の府教育委員会会議は、この「計画」に基づき14年度「実施対象校（案）」を決定し、11月の教育委員会会議で最終決定するとしました。

「計画」の内容

池田北高校（池田市）、咲洲高校（大阪市住之江区）を2016年度入試から募集停止、廃校へ

成城高校、岬高校をエンパワメントスクールに改編

豊島高校、北かわち
皐ヶ丘高校、みどり清朋
高校、懐風館高校を普通
科総合選択制から普通科
専門コース設置校に改編

制高校は公立、私立、国立あわせて255校です。つまり、2校で1クラス強の減で十分対応できる数です。

「計画」を議論した高校専門部会でも、「他府県と比較して大阪には大規模校が多い。1校あたりの学級数を減らすことで十分対応できる」「生徒数減少をチャンスにとらえ思い切った少人数学級を実施すべきではないか」「今後の変動要因が大きいし、学校は一旦つぶすとあとで建てるのは困難な重かつ柔軟に対応すべ

府教委が「7校廃校」の前提としている公私間比率（公立高校・私立高校の生徒受け入れ比率）は、12年度実績の「65：対34」です。しかしこの間、公立への進学が増加しており、14年度（速報値）では「67：対32」と、1・4ポイントも公立寄りに変化しています。

今年度の中卒者数に当てはめると千人を超え、府立高校4校分以上です。

府教委の考え
18年度までに7校程度募集停止（廃校）する
いいえ
公立高校は不足しています

き」などの意見が出され、高校つぶしには否定的な意見が大勢でした。

いま、府教委がおこなう

きは、府立高校つぶしではなく、30人学級実現など、教育条件を抜本的に整備することです。

また、12年度以降、受け入れ枠を狭めた公立に志願が集中する一方、私学への志願者が減少し、大阪全体の「全日制高校進学率」が0・5%も低下しています。14年度の「昼間の高校」への進学率は92・4%で、府計画進学率（93・9%）を実現するためにあと15校必要です。全日制高校で学びたいと願う生徒が不合格となり、やむなく定時制に進学したり、進学をあきらめる状況が広がっています。

こうした子どもたちの「学ぶ権利」をまもるために、公立高校の受け入れ枠は狭めるのではなく、大幅に拡大することが求められています。

子どもたちのために、最善の教育条件を確保しよう！

泉北教組への加入をうったえます。